

高校サッカー選手権東京都1次予選に出場するチームへのお願いと諸注意

別紙「令和4年度高校サッカー選手権東京都1次予選感染症拡大防止対策ガイドライン」を遵守し、各チームの感染対策責任者を決定後、健康チェックシート（別紙1）の持参を徹底し、使用する会場の指示に従ってください。今大会における競技に関する主な変更点は以下太枠の通りです。1~11までの項目も重要事項なのでよくご確認ください。

健康チェックシート（別紙1）は高体連サッカー専門部HPよりダウンロードして使用してください。試合毎に必要な書類なので、お忘れ記入漏れがないよう各チームご協力よろしくお願いいたします。

- ・ 部員・部員の保護者に限り観戦可能とする（会場により上限人数あり）。無観客試合の会場もあるので会場校の指示に従う。
- ・ チーム応援は1名代表者を決め（観戦者）、観戦者名簿（別紙2）を本部に提出する。チーム応援代表者は、会場入するチーム応援者全員の検温と消毒を実施、徹底する。
- ・ グラウンド入りできるのは、選手・スタッフを含めて1チーム上限を32名とする。
（32名の内訳はスタッフ5名、登録選手23名、ボールパーソン2名、その他（ベンチ外ワーク）2名までとする。）
- ・ ボールパーソンは2名ずつ当該チームから出す。（32名の中から2名）
- ・ 担架要員は設けず、担架が必要になった場合の対応の仕方についてマッチミーティングにおいて確認する。
- ・ 試合時間は、2回戦までは40分ハーフ即PK、代表決定戦は40分ハーフ延長あり（10分ハーフ）即PK。
- ・ 感染防止対策の観点から前後半20分頃に飲水タイムを設けることを標準とし、WBGT値の基準（12.熱中症対策）を採用し、飲水タイムの取り方を決定する。
- ・ 原則グラウンド内W-UP時間を約30分確保し、マッチミーティングはKO時刻30分前に行う。
- ・ 試合球に関して、一次予選は各チームから3球持ち寄る。
- ・ 次戦対戦校のみスカウティングを認める。スカウティング要員は2名までとし、スカウティング申請用紙（別紙3）を本部に提出して会場校の注意を遵守する。

1 選手証の持参 ※選手証は2022年度版になっているか確認して提出すること。

- ・ 忘れを防ぐため、コンビニを取り、複数名が持つ。
- ・ 選手証に写真がないものは認められない。
- ・ 選手証が印刷できる迄の期間、チーム責任者が選手登録一覧表を印刷し各地区の総務印を押したものを提示する。（追加登録も同様）
- ・ 各チーム登録にログインするためのID・パスワードが分かるよう準備する。

2 ユニフォームの持参

- ・ フィールドプレーヤーとゴールキーパーのそれぞれ正・副を必ず持参する。
- ・ ハンドブック記載の「ユニフォーム規定」を遵守して準備をする。

3 メンバー提出用紙

- ・ 高体連専用のフォーマットを使用し、当日の試合開始30分前までに本部に提出する。

4 試合時間の厳守

- ・ 試合開始時間に選手規定人数（7人以上）と引率責任者が必ずいる事。
- ・ ラインアップ時間、キックオフ時間を守るよう協力する。
- ・ マッチミーティング開始時刻は各会場の指示に従う。（今大会は試合開始30分前に行う。）

5 警告退場確認書

- ・ 毎試合に必ず本部に提出し、試合後持ち帰る。
- ・ 警告・退場者が出た試合の会場長、審判からサインをもらう
（該当者なしの場合「なし」を記入しサインをもらう。会場長のサインは高体連役員でなければならない。）
- ・ 出場停止日数については、規律フェアプレー委員会の通達（写し）を裏面に添付し、顧問が出場停止試合数を記入する。
- ・ 出場停止消化欄は、顧問が必要事項を記入する。
- ・ 一次予選勝ち上がり校は一次予選で使用した用紙を二次予選でも使用する。（一次予選最終試合での累積警告または一発退場は二次予選での処分適用となるが、警告のみの場合、二次予選では持ち越されない）

6 会場の使用 ※ 感染症予防ガイドラインを遵守し、会場長及び感染対策責任者の指示に従うこと。

- ・ 有観客試合となる場合、部員と部員の保護者に限られるため、各チームその他の応援、観戦者が会場に来ないように徹底する。
- ・ 決められた場所で更衣を行い、会場が学校の場合、校舎棟に入らない。
- ・ 会場施設の破壊、破損等が絶対にならないようにし、ゴミは各チームで必ず持ち帰る。

- 7 **ウォーミングアップ ※ 感染症予防ガイドラインを遵守し、会場長及び感染対策責任者の指示に従うこと。**
 ・会場によってボール使用不可、スパイク不可などもあるので、各チーム対応できるよう準備をし、会場長の指示に従う。(今大会は試合開始前 30 分間、ウォーミングアップ時間を確保している)
- 8 **公共のマナー**
 ・駅周辺から会場までの通行の仕方(他の通行人を妨げない)に注意する。
 ・駅周辺にかたまり、迷惑にならないよう注意する。
 ・移動中のマスクの使用、3密を避けるなどチームとして感染拡大防止に協力する。
- 9 **貴重品の管理**
 ・貴重品の盗難、紛失については、主催者側としては責任を負いかねるので、各校責任をもつ。
- 10 **飲水について ※ 感染症予防ガイドラインを遵守し、会場長及び感染対策責任者の指示に従うこと。**
 ・選手は体調を整え試合に臨むようにし、各チーム個人ボトルを準備する。
 ・共有ボトルをピッチ脇に置くことができないので、飲水タイムを前・後半 20 分頃に設ける。
 ・個人ボトルをピッチ脇に置く場合は、試合の妨げにならないようチームとしてまとめて、個人のボトルとして分かるよう置くよう配慮する。
- 11 **熱中症対策について**
 ・選手は体調を整え試合に臨むようにし、各チーム飲水、冷却用の氷の準備など熱中症対策を十分に行うようにする。
 ・高体連として以下の対策をして試合を行うので、チームとして協力する。

【対策 1】 各試合会場において本部および両ベンチにテントを設置する。
 会場の都合により設置できない場合は、ベンチ外に待機場所(日陰)を作るようにする。

【対策 2】 クーリング・ブレイクを行う。

クーリング・ブレイク

- 従来の飲水タイムに代わって行う。
- 前後半 1 回ずつ、半分の時間が経過した頃、3 分間の休憩を主審が設定する。
 (ベンチでの休憩が 3 分であり、その時間は試合時間に追加される)
 (主審と会場担当者の協議により最大 5 分間まで許容する)
- 選手と審判員は、日陰にあるベンチに入り休む。
- ハーフタイムについても選手と審判員は、日陰等の過ごしやすい場所で 10 分間しっかりと休む。
- 氷・アイスバック等で体を冷やす。
- 水やスポーツドリンク等を飲む。
- 戦術的な指示も許容する。

クーリング・ブレイク実施の判断基準(原則とし、マッチミーティングで必ず確認すること。)

※ 原則とは、イ)においてはクーリング・ブレイクを飲水に変えることができ、ウ)、エ)においては基準値を満たしていても飲水を減らすことができる。ただし、審判、チーム、選手、会場責任者全員の同意が必要。

- (1) ア) WBGT=基準値以下の時 【飲水タイムを】前後半 20 分前後に 1 回ずつ設ける。
 イ) WBGT=25℃以上の時 【クーリング・ブレイク】を必ず行う。
 ウ) WBGT=28℃以上の時 【クーリング・ブレイクと飲水】を必ず行う。
 * 飲水については、前・後半 3 5 分頃(ランニングタイム)に飲水を行う。
 エ) WBGT=30℃以上の時 【上記のクーリング・ブレイクと飲水】に加え、
 前・後半 10 分ごろに飲水を行うことを推奨する。

- (2) WBGT 計測器が会場にない場合
 ・原則【クーリング・ブレイクと飲水】を行う。
 (明らかに涼しい場合の対応や暑さなどによる追加の飲水については、主審と会場担当者で必ず協議する)

【対策 3】 ハーフタイム時間を最大 15 分取ることが可能。
 (ハーフタイムは競技規則により最大 15 分(前半終了の笛~後半開始の笛)まで取ることができ、会場運営に支障が出る場合は、10 分以上 15 分以下として設定し、その限りとしなない。ただし、駒沢競技場などピッチが 2 面ある施設で同時刻 KO の場合は、基準を統一する。)